

●一般社団法人日本セカンドライフ協会

人生には、いつでも新しい出会いがある！

セカンドライフの暮らし方に戸惑う人も多くなか、大勢の人がいきいきと自分らしい人生を謳歌している組織、日本セカンドライフ協会を取材しました。人が変わるには3つの方法しかない、という経営コンサルタント・大前研一氏の名言に「時間配分を変える、住む場所を変える、付き合う人を変える」があります。取材で見えてきたものは、大前氏の言葉通り、いきいきシニアには「つながりを大切にしたい」人々との出会いがあることでした。



風薫る5月の土曜日、東京で最も長いアーケード商店街と言われる武蔵小山パルム商店街（品川区）にほど近い会館で、一般社団法人日本セカンドライフ協会主催の「大人の文化祭!」が開催されました。コンセプトは、「一生モノの趣味と仲間に出会う特別な1日」。

一生モノの、と謳われているのがこの協会らしいところです。当協会は、英語表記の Japan Association of Second-life Service の頭文字をとって通称 JASS(ジャス)と呼ばれています。当日のプログラムは左記通りで、多種多様のイベントが行われ

ました。特筆すべきは、これらが素人の発表会ではなく、プロもしくは普段から公演活動を行なっているアマチュアの方々によるものだということ。小1時間ほどの1度きりのステージに、大勢のアーティストが協力を惜しまずに集まってくださったという「人々のつながりを大切にする」JASSならではのイベントでした。

JASSとは

JASSは、1990年4月にサラリーマンOB・OGの「生きがいづくり」を支援するために多くの企業・団体の参加を得て、「日本退職者福祉協議会」として発足したことに始まります。2013年4月に現在の「一般社団法人日本セカンドライフ協会」に名称変更、今年は37年目を迎えます。

発足以来、企業・団体の壁を超えた新しいコミュニティのなかで仕事以外の「生きがい」や「友人」を見つけることを目的に、イベントやサークル活動を通じて、第2

の人生をいきいきと暮らせる社会の実現を目指してきました。

現在の会員数は約2万名（コロナ禍前は倍以上の数だったそうです）、年間イベント開催数は約2000件を数えます。

JASSイベントの仕組みを簡単に説明しますと、『JASSネット』という3か月分のイベントスケジュールを掲載した季刊誌が発行され、JASS会員は、そこから希望するイベントを選んで申し込みます。

JASS会員には企業会員と個人会員の2種類があり、企業会員はJASSに協賛する企業（現在

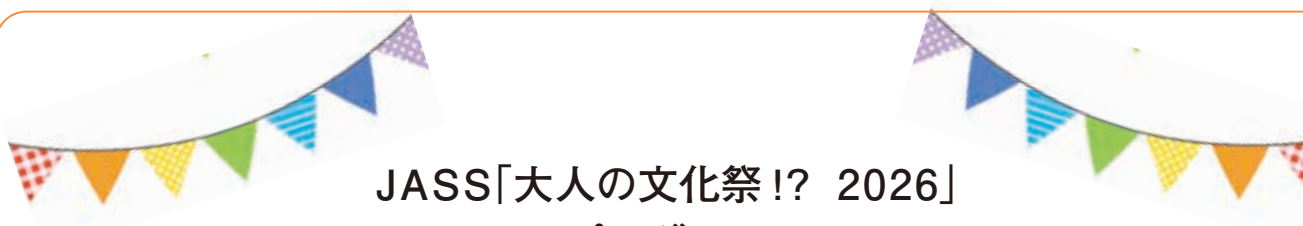
42社）に所属する方、個人会員は年会費5000円でJASS友の会に加入している方です。参加料金は各イベントごとに設定され、数千円のものから、宿泊を伴う旅行など数万円のものがあります。

JASSイベントの特徴は、なんといつでもイベントを行う側も現役を退いたOB・OGであること。彼らは運営委員と呼ばれ、元々は素人ながら研修を経て、イベントの企画、募集、催行、引率、予算管理まで全てに責任を持って行います。運営側と参加側が退職者という同じ立場だからこそその居心地の良さを感じている方も多いようです。

運営委員は現在93名、最高齢は88歳です。

運営委員は天職！

そう語るのには、運営委員になって16年目の森洋人さん（76）。今回の大人の文化祭では、「東京百年食堂を語る」のプレゼンターを務めました。創業100年以上の老舗店を訪ねる街歩きは2018年から続く森さんの人気企画です。当日の紹介は東京日本橋エリアに絞



JASS「大人の文化祭!」 2026」 プログラム

【3階会場】 10:30 ～ クラリネット演奏 11:30 ～ 雅楽講義&演奏 12:30 ～ 南京玉すだれ 13:00 ～ 落語 14:20 ～ ハワイアン&フラダンス 15:20 ～ ジャズオーケストラ	【2階会場】 10:00 ～ 歌唱（JASSうたおう会） 12:10 ～ 東京百年食堂を語る 12:50 ～ キレイで元気になれる食育レッスン 14:00 ～ ヴァイオリン演奏 15:00 ～ 篠笛演奏と体験
--	--

【出展】
(有限会社) プリントアート 巨大万華鏡をのぞいてみよう！ 他

【特別企画】
武蔵小山商店街 案内ツアー





3階会場の司会を務めたのは運営委員のおかめ家ゆうこさん。`おもろいこと伝道師。としてアートおりがみ講座、文楽や歌舞伎の鑑賞教室、国内外の詩を楽しむオンラインミニ講座「詩の広場」を実施。

られましたが、配布された資料には106軒の店名がズバリ。それはごく一部で、神奈川や埼玉などの東京近郊を合わせると1500軒に上る老舗店をリストアップしているそうです。

「最初は、私が大好きな『鬼平犯科帳』（池波正太郎著）の舞台を巡る街歩き企画だったんだよ。文庫本全24巻を読み込んで街歩きのルートを考えて、おかげで江戸の道にも詳しくなったんだけど、4年で40本やったらネタがなくなってきた。池波先生の作品に登場する季節の料理とか美味しいものとかを調べてみると大体が100年以上



「東京百年食堂」を語る森洋人さん

のお店だったから『百年食堂』というネーミングでやってみようと思いついてね。そこからもう8年だね」。

森さんは、他にも街道歩き、裏路地散策、四季の花鑑賞散歩などのシリーズ企画も行っています。普段からメモを持ち、企画情報の収集に余念がないそうです。

「JASSに入ってからよかったとつくづく思っています。新しい人々に出会って、新しい人生に生きがいを感じて、運営委員は天職ですね。現在、運営委員の最高齢は88歳。私も命ある限りやりたいね」。

超後期高齢世代も現役バリバリ

運営委員最高齢、伊藤照男さん（88）は、今年7月から9月の間に各国料理の食博会、海上自衛隊基地見学、美術館鑑賞、海岸散策などのイベントを月3本ほどのペースで開催予定です。

田中勝吉さん（86）は、JASSきつての「漁労長」。ほぼ毎月の海釣り会を中心にハイキング、「地下神殿」（首都圏外郭放水路）見学、サクラソウ、桜、藤、牡丹、花菖

でした。

もっと喜んでもらいたいと老人ホームに貸し出したところ、車椅子の人には上から覗けないと言われ、横から覗けるタイプに改良。そのお披露目の会場で、車椅子で万華鏡を覗いた脳性麻痺のお子さんが笑って、ご家族が感涙され、それを目の当たりにして島崎さんもまた感動して…。

感動する心は、認知症予防に影響するそうで、医学博士の川村賢司先生によると「認知症はもの忘れからではなく感動が薄れた時から始まる」とのこと。万華鏡は感動を得るには最高のものなのです。



車椅子で覗ける巨大万華鏡。（島崎さんのHPから）

蒲など季節花を愛でる会など年間30本以上を実施しています。

田中さんは、新しい企画を考えるとときは新聞折り込みなどで案内されているツアー企画で気になるものがあれば実際に参加して企画のヒントにし、必ず下見して実施しているそうです。

「手間ひまかかって、皆さんが楽しんでくれるので、それを楽しみに私も一生懸命やっています」。

やりたい、知りたい好奇心を枯れさせない

80代後半で元気なのはお客さま（JASS会員）も共通です。



運営委員最高齢の伊藤照男さん（左端）。「北鎌倉の紫陽花鑑賞と古民家フレンチ」イベントにて



田中勝吉さんの「漁労長」JASS

森洋人さんのイベントの常連さん（87）は、小田原市在住ながら朝一番のプログラム「うたおう会」から参加。とにかく好奇心旺盛な方で、過去にコロナ禍でイベント開催が制限されてオンライン講座が主流になった時には、JASS関西の企画「JAXAの宇宙講座」にまで参加して楽しい思いをされたそうで、「JASS企画はおもしろいよ」と力説。

「JASS企画じゃないけど、JASSの人に誘われて83歳の時に初めてヨットレースに参加させてもらってね、僕は操船できないか

新たな出合いを求めて

今回の大人の文化祭はJASS初めての試みでした。発案者は、JASS事務局業務部長の山崎進一さん（66）。山崎さんは運営委員でもあり、今回のプログラムにある雅楽やジャズバンドのイベントをはじめ、数々の企画を実施しています。

「私も含め、通常は運営委員が個別でイベントを行っていて、ありがたいことにそれぞれ常連さんがついています。そんなイベントをいくつかまとめて実施すれば、皆さんにもっと楽しんでもらえるんじゃないかと」。

確かに、当日は、10を超えるイベントが楽しみ放題といううれしい機会でした。

「地元と組んだイベントも新しい試みです。今回は地元商店街の案内ツアーを企画したり、地元企業の出展や地元のお客様にも来てもらえるようにしました。日本の人口減少とともにJASSも入会者が減ってきています。新しい方にJASSのことを知ってもらい、一緒に活動していけたらと思って

います。若い世代の加入も大歓迎。
定年が引き上げられている昨今、その後の人生をいきいきと元気に暮らすために、若いうちから準備するきっかけにしてみられたいと思います」。

近隣にお住まいという60代の男性にお話を伺いました。
「JASSのことは知らずに知人に誘われて来ました。意外にもしよかったのは雅楽です。なまの演奏を聴いたことがなかったの、ちよっとだけ覗くつもりが、楽器の説明や歴史の話などもあっておもしろく、結局最後まで参加しました。貴重な体験でした」。



「初心者のためのジャズ講座」での山崎進一さん

今回の来場者は、JASS会員100名ほど、一般のお客様50名ほどだったそうです。

JASSの楽しみ方はそれぞれ

最終プログラム「篠笛演奏と体験」終了後、4名のJASS会員方々にもお話を伺いました。

80代の女性2名は、朝イチの「うたおう会」から「篠笛」まで7つのイベントに参加したそうです。JASSについて伺ってみると、「20年前、夫についてJASSイベントに参加したのが最初です。そのおかげで一人で出歩くことにも慣れ、夫亡き今も、数えきれないくらい参加しています」。

「JASSイベントは後腐れがないの、がいいですね。JASSという仲間意識があるので、わざわざ自己紹介をしなくても自然にその場に入って楽しめますし、終わりますと『お疲れ様！』でお別れですから」。

これに70代の女性も同意され、「そうなんです。特に男性はこれまでの仕事や役職を引きずる方が多いと聞きますが、それが全くな

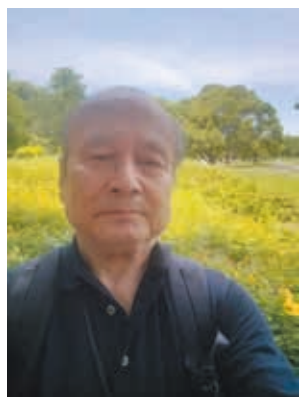
が限度だと感じたんです」。

JASSの宝を次世代へ繋いでいく

取材の最後に、37年続いてきたJASSが大切にしていることについて、理事長を務める水越征雄さん(81)にお話を伺いました。

「我々の財産は、もちろんイベントです。会員さんに楽しんでもらうイベント企画、それに関わる人脈、それらが全てJASSの財産です。我々の使命は、先輩から引き継いだイベント企画を陳腐化させず、時代の流れに合わせながら次世代へ繋いでいくことです。タイトル名をアレンジしたり、キャッチコピーを工夫したり、同時に新しい企画も考えています。そして、人間関係も大切にします。イベントの講師を務めてくださる方、アーティストの方、場所を提供してくださる方、参加してくださる方、いろんな方々の協力でイベントは実施されています。それらの人脈もJASSの宝、大切に引き継いでいくものです」。

水越さんは運営委員でもあり、ウクレレ教室、歌舞伎講座、食事



理事長の水越征雄さん

会、デジカメ写真講座などのイベントを実施しています。
「私の企画は講師をお願いするところがほとんどなので、60歳から築いた新しい人間関係が多いです。今日、演奏してくださったウクレレ奏者の方も最初は飛び込みでご挨拶して、お願いして、OKもらいました。会員さんの楽しみのための人脈づくり、それが私の仕事です。理事長としてはエリアの拡大ですね。現在は、東北、関東、中部、関西の4地区ですが、北海道、九州へのエリアも拡大したいと思っています。それが理事長としての最後の仕事でしょうか」。



「大人の文化祭!」の1日、会場となった4階建ての館内はJASS皆さんの活気であふれていました。この活気はどこから？ はたと気付いたのは、声でした。話す声、

いので話題がおもしろいんです。

それと一人では行きにくいところでも企画に参加することで行けることも、JASSの良さですね」。

また、病後のリハビリのために参加されたという60代の女性は、

「腹式呼吸が身体にいいと思って篠笛体験に参加したのが最初です。最初の3か月は全然音が出なくて、ようやく音が出て公園で曲を練習していたら、通りすがりの人に『下手くそ!』って言われたんです。このヤローと思いました、もう3年続けています」。

JASSの出会い、楽しみ方は人それぞれです。印象に残ったイベントを尋ねてみると、

「私は、高橋さん(運営委員)の『ゆこ旅』がよかったですね。一見無計画かと思えるような(笑)、スケジュールのゆるい旅で、ここでトイレ休憩しようとか、お茶飲んでいきましようとか、私たちの年齢にはちょうどいいのんびり旅でした」。

同年代だから分かる満足の仕方

さきほどのお話に出た高橋さん

笑う声、あちらこちらにあふれる談笑する声でした。

改めて館内を見回すと、スマホ操作に夢中人は、ほぼ皆無。

スマホよりも触れ合いを——一緒に楽しめる人ときあうことは、いきいき人生につながると実感した1日でした。



JASS data

- ・JASS会員数：約20,000名
- ・年齢別会員概数：50歳代120名、60歳代1,600名、70歳代7,000名、80歳代11,000名、90歳代1,100名
- ・年間イベント数：約2,000件
- ・運営委員数：93名 ※加えて10名(46～66歳)が今年デビュー
- ・長寿イベント
【20年以上継続】世界史講座、大相撲観戦、水彩画教室、お座敷天ぷら、旅行、海釣り、中華街飲食、歴史散策、麻雀教室
- 【10年以上継続】ウクレレ教室、歌舞伎講座、篠笛教室、国会議事堂見学、おりがみ講座、写真教室
- ・人気ジャンル・ベスト5：趣味・健康・暮らし、文学、食文化、歴史、芸術

(2026年5月現在)

- 開催イベントはJASSのホームページからご覧いただけます。
- JASS会員以外の方でも、各イベント参加費に+500円で参加できる「ビジター制度」があります。
- ご興味のある方は…… JASSのホームページへ
<https://second-life.or.jp/wp/>



詳しくは83ページをご参照ください。

は、弊誌で「スマホ音楽講座」を連載中の高橋正幸さん(78)です。

高橋さんは、ゆこ旅やスマホ相談会のほか、篠笛体験教室、落語鑑賞会、喫茶店巡り、居酒屋訪問などのイベントを実施しています。

スマホ相談会にも高橋さん流のお客さまへの気遣いがあり、定員を当初の4名から2名に減らした経緯があります。

「スマホの機種が違くと画面も使い方も違ってきますし、理解度のレベルも違うとなると4名一緒に難しい。我々世代のことを思うと、ある程度理解してもらうには2名



「街歩きイベント」を実施する高橋正幸さん